

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●天皇賞(秋)はドウデュースが優勝

10月27日(日)に行われた天皇賞(秋)(GⅠ)ではドウデュース(牡5歳／栗東・友道康夫厩舎)が優勝しました。同馬は2021年朝日杯フューチュリティS、2022年東京優駿(日本ダービー)、2023年有馬記念を制しており、4年連続のJRA・GⅠ勝利はグレード制が導入された1984年以降では7頭目のこと。鞍上の武豊騎手は天皇賞春秋通算15勝目で、自身の持つ最多記録を更新。天皇賞(秋)7勝は保田隆芳元騎手と並ぶ最多タイ記録となります。

●浜中俊騎手がJRA通算1200勝を達成

10月26日(土)の5回京都7日・第5レースではミッキーゴールドが1着となり、同馬に騎乗した浜中俊騎手(栗東・フリー)は、史上32人目・現役16人目となるJRA通算1200勝(1万1137戦目)を達成しました。

●C.デムーロ騎手がJRA通算200勝を達成

10月27日(日)の4回東京8日・第3レースではチューラワンサが1着となり、同馬に騎乗したクリスチャン・デムーロ騎手は、現役58人目となるJRA通算200勝(1236戦目)を達成しました。

●坂井瑠星騎手がJRA通算500勝を達成

10月27日(日)の4回東京8日・第4レースではタガノバビロンが1着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、現役35人目となるJRA通算500勝(4970戦目)を達成しました。

●西塙洸二騎手が秋の新潟リーディングジョッキーに輝く

10月27日(日)をもって4回新潟競馬が終了し、9勝をあげた西塙洸二騎手(栗東・フリー)が自身初となる開催リーディングジョッキーに輝きました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ミリアッドラヴがエーデルワイス賞(門別)でデビュー以来2連勝

エーデルワイス賞(JpnⅢ、2歳牝馬、10月31日、門別、1200m)は、出遅れから好位に取り付いたミリアッドラヴ(西村淳也騎手、父ニューイヤーズデイ)が直線に入り間もなく抜け出し、単勝1.4倍の支持に応えて新馬戦から連勝。エイシンマジョリカ(北海道)が2番人気のアーデルリーベを抑えて2着に入り、イッシンフランは6着、ラインパシオンは最下位の12着に敗れています。

●佐賀のJBCにメイショウハリオ、ウィルソンテソーロらが参戦

JBCクラシック(JpnⅠ、11月4日、佐賀、2000m)は、メイショウハリオ、ウィルソンテソーロ、ノットウルノ、ウィリアムバローズの順に有力視されます。

JBCスマートリント(JpnⅠ、11月4日、佐賀、1400m)は、チカッパが中心も混戦模様で、シャマル、タガノビューティー、イグナイト(兵庫)、ヘリオス、バストラットレオンらが差なく統きます。

JBCレディスクラシック(JpnⅠ、11月4日、佐賀、1860m)は、連覇を狙うアイコンテーラーとグランプリッジが双璧、以下テンカジョウ、ライオットガール、アンモシエラ、キャリックアリード(大井)までが争覇圏内と考えられます。

JBC2歳優駿(JpnⅢ、11月4日、門別、1800m)は、初ダートとなった未勝利戦を大差勝ちしたタガノマカシヤと、4戦全勝のリコースパロー(北海道)の対決が最大の焦点となり、他にJRAからはローランドバローズ、グランジョルノ、イサナ、ダノンフェルゼンが出走を予定しています。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1コックスプレート～ヴィアシスティーナが8馬身差で圧勝

現地10月26日にオーストラリア・ヴィクトリア州のムーニーバレー競馬場で行われたG1コックスプレート(3歳上、芝2040m)は、後方でレースを進めたヴィアシスティーナ(牝6歳、父ファストネットロック、C.ウォーラー厩舎)が外から進出して残り400mで先頭に立つと、直線で差を大きく広げて8馬身差で圧勝しました。勝ちタイムの2分01秒07はウインクスが2017年のこのレースで記録した2分02秒94を大きく更新するコースコード。日本から遠征したプログノーシスは速い流れを先行して良く粘りましたが2着でした。

勝ったヴィアシスティーナは昨年7月のプリティポリーS(芝2000m)でG1初制覇。シーズン末には牡馬混合のG1チャンピオンSでも2着に入りました。その後、タタソールズのセールで約5億3000万円で落札されてイギリスからオーストラリアに移籍。以降、今年3月のランヴェットS(芝2000m)、8月のウインクスS(芝1400m)、そして前走10月5日のターンブルS(芝2000m)と3つのG1勝ちを収めて、ここに臨んでいました。鞍上のJ.マクドナルド騎手はアナモー、ロマンチックウォリアーに続く3連覇を達成するとともに、G1・100勝目を挙げました。